



Weekly Market Report

Nov 30, 2020

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

コロナウイルス再拡大に伴う制限強化による景気減速に警戒

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

先週のドル円は、103円半ば～104円後半のレンジにて推移。週初早々に週間安値を付けた後、米11月総合PMIが5年7か月ぶり高水準と良好な結果となったこと等を受け反発、翌24日には一時104円後半まで円安ドル高が進行。その後は、米11月消費者信頼感指数の冴えない結果や、米感謝祭前後のポジション調整、米長期金利低下を受けたドル売り圧力が重しとなり、じりじりと円高ドル安が進行し、104円前半で週越。また、米国各州で過去最大のコロナ感染者数となっていることや、ドイツでのロックダウン延長報道等、世界全体では感染者が6,250万人を超える状況であり、足元のコロナ不況長期化への懸念は日々強まっている。

今週は米雇用統計等の米主要経済指標があり注目が集まるが、コロナウイルス再拡大を背景とする制限強化による景気減速懸念から、引き続きドル円の上値は重い展開と予想する。(市場営業部/治久丸)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
12/1(火)	(豪) 政策金利発表	0.1%
12/1(火)	(欧) 11月消費者物価指数	0.2%
12/1(火)	(米) 11月ISM製造業指数	57.8
12/3(木)	(米) 11月ISM非製造業指数	56.0
12/4(金)	(米)非農業者部門雇用者数変化	50.0万人

USD/JPY (5年間)



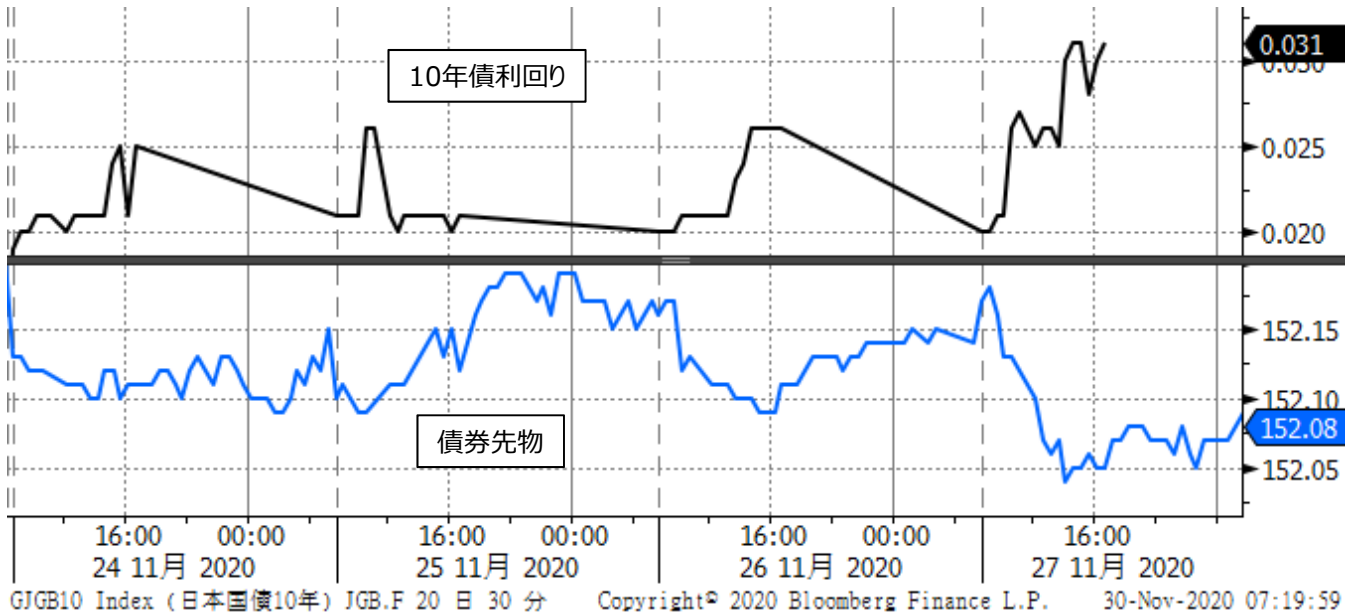
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
福永純一	103.00 - 105.00	米主要経済指標 (ISM・米雇用統計等) の発表が続くが、新型コロナ再拡大もあり、結果に関わらず上値の重い展開か
山下航平	102.50 - 105.00	イエレン元FRB議長の次期財務長官に起用により、緩和姿勢強まるか。日米金利差縮小の思惑から円高地合いを予想

2. 円金利相場概況

新型コロナウイルスの感染拡大とそれに伴う第3次補正予算の規模に注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



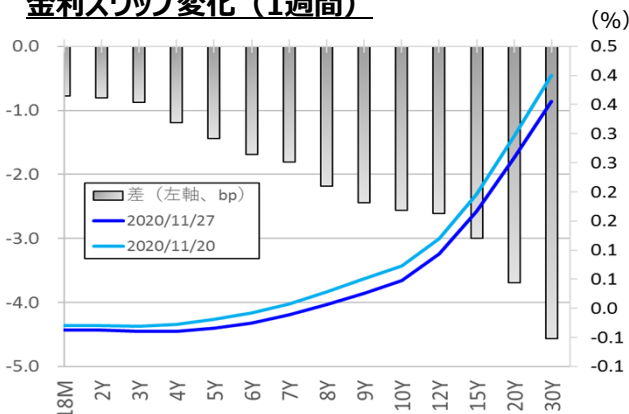
(出所) Bloomberg

コメント

先週末の債券相場は、新型コロナウイルスワクチンを巡る明るいニュースや次期財務長官に元FRB議長であるイレン氏が起用されるとの報道を受けて米国金利が上昇したことで国内債に売りが入り、4営業日ぶりに下落してのスタート。TOPIXが2018年10月以来の高値をつけるなど、国内株式市場が大幅高になったことも重しとなった。週半ばは東京都が飲食店などに対し営業時間の短縮するよう要請する方針を固めたことが伝わり、リスク回避の債券買いで上昇する場面も見られた。しかし、週末にかけては日経平均株価が続伸する中で安全資産とされる国債に売りが入ったことや、新発2年国債の入札が弱めの結果となったことで債券先物価格は続落。長期金利は0.031%まで上昇して越週。今週の債券相場も引き続き、12月に編成される第3次補正予算の規模に注目となる。感染拡大で補正予算の規模が大きくなり超長期国債増発懸念につながると、長短金利差が拡大する可能性が高まる。

(市場営業部/塚田)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（5年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
内田直樹	0.00% - 0.04%	円金利はレンジ相場継続。欧米中銀の追加緩和期待により、海外金利のフラット化が進んだ場合、円金利も低下方向で推移。
伊豆浦有里恵	0.01% - 0.04%	今後の国債発行の行方を見ながら債券はやや神経質な展開か。今週の入札動向や新型コロナ感染拡大への政府の対応に注目。

3. 今週のトピックス

米ドル相場と代替資産の概況

米ドル下落トレンドも、年末年始の相場急変動に注意。引き続き、ドル代替投資先を探る展開。

対欧州通貨で再びドル安進行

3月に米ゼロ金利政策実施後、対欧州通貨で徐々にドル安が進行している。対ユーロで9月に節目の1ユーロ=1.20ドル程度まで上昇するも、ECBによるユーロ高けん制を受け、上昇圧力は一服していた。しかし、足許では新型コロナウイルスのワクチン実用化への期待やトランプ大統領が政権移行業務を容認したとの報道を受け、リスク先行姿勢が強まり、ユーロは再び9月以来の一段高となり、対欧州通貨でドル安が進行している。同時に、欧州通貨の比重が高いドルIndexも再び92ポイント割れの水準まで下落している。

欧州市場では、英国のEU離脱移行期間の期限が12月末に迫る中、英・EU間の貿易交渉の難航リスクに加え、12月のECB追加緩和観測など上値抑制材料が残っている為、米ドルの代替としてユーロが台頭するには引き続き難しいと考えられる。

金は横ばい圏推移も、ビットコインは続伸となるか

世界中で新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各国中銀による大規模緩和策を背景とする法定通貨へのインフレ懸念の高まりから、インフレヘッジを目的とした金（Gold）やデジタルゴールドと呼ばれるビットコインへの資金シフトに注目を集めてきた。

金については、8月に過去最高値の2,000ドルを突破して以降は上昇の勢いを失い、ワクチン開発報道を受けたコロナ感染の収束と経済活動再開への期待から下げ圧力が掛かっている。しかし、欧米を中心に感染再拡大とワクチン提供への不透明感もあり、足許では1,800ドル台で下げ止まりつつある。

金が底堅い値動きの一方で、ビットコイン価格は10月以降急伸している。これまで個人投機マネーが中心の市場に、コロナ禍で機関投資家も参入したことが主な要因である。特に米グレイスケール・インベストメントが運営するファンドが追加大量購入した事、また米決済大手のペイパルが仮想通貨への決済導入開始を示唆した事により決済手段としての期待の高まりもビットコイン高を後押しする格好となっている。足許では、仮想通貨による規制強化観測への懸念から急落しており、価格上昇トレンドに歯止めを掛けるか今後の動向には注視したい。

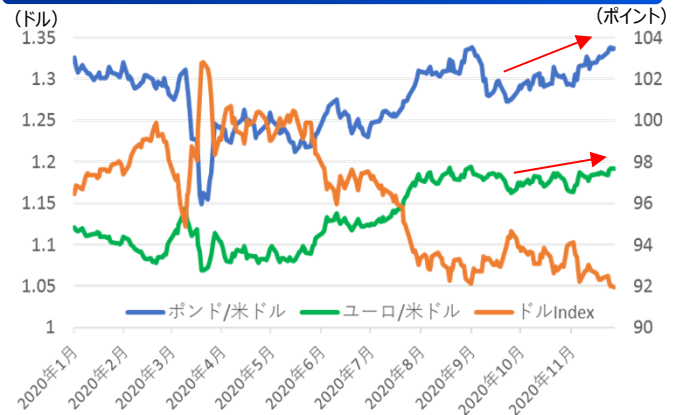
年末年始のドル円相場の動きに注意

ドル円相場は通期を通して見ると徐々に円高ドル安が進行しているが、11月米大統領選でバイデン氏当選確定が報道されたにもかかわらず、大きな方向性は出づらいう展開が続いている。新型コロナワクチン実用化への期待や政治的不透明感の後退を背景としたリスク選好地合いの中、ドルと円はともに売りが交錯し易く、値幅は抑えられている。

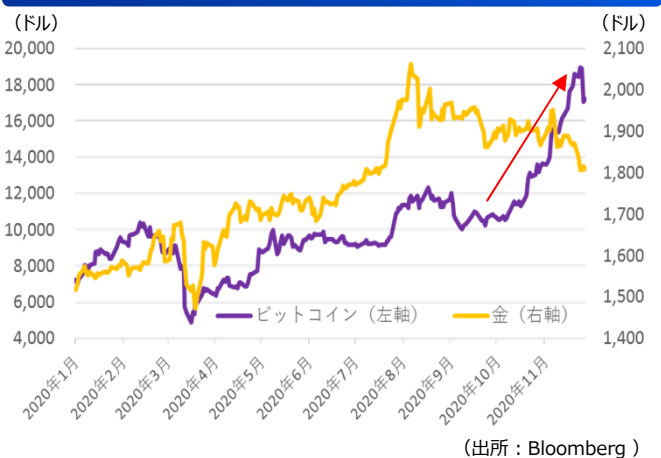
日米金利差を見ると、8月に一時0.50%程度まで縮小して以来、金利差は拡大しているものの、ドル円相場はドル安に進行している。1%以内での推移では、FRBのゼロ金利政策下の想定内として、レンジ内での金利差拡大についてはドル買いが見込みづらいう状況と考えられる。

足許では①新型コロナワクチン接種開始が12月上旬見込みであるが幅広く配布されるのは年明け以降となること。②ねじれ議会の見通し（上院選挙の決選投票は来年1月5日）により、バイデン氏の政権運営の規模や時期への不透明感。③新型コロナウイルス感染の第三波への警戒感。などの懸念材料を抱えたまま、年末年始を迎えることとなる為、クリスマス休暇から年明けにかけての薄商いで、相場が急変動する恐れあり、突然の円高進行の可能性には注視したい。（市場営業部/福永）

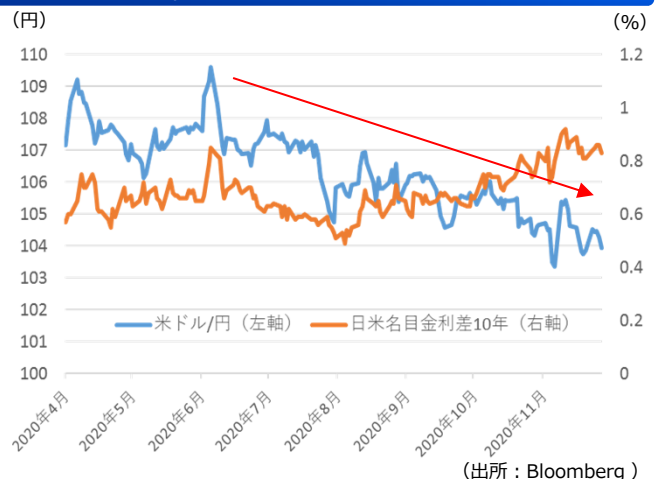
ドルIndexと米ドル/欧州通貨【図1】



金・ビットコイン（ドル建て）価格推移【図2】



米ドル/円相場と日米名目金利差【図3】



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会